

水稻乾田直播栽培における 土壌処理剤(マーシェット乳剤)を用いた雑草防除法 ～ 乾田直播栽培の新しい除草方法の開発 ～

要約

水稻の乾田直播栽培で、土壌処理剤を利用した播種後の雑草を抑える除草方法を開発しました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

水稻乾田直播栽培で雑草が多い理由に、降雨などで乾田期の選択性茎葉処理除草剤が適期に散布できなかった事例があります。そこで、本研究では、選択性茎葉処理除草剤より早い時期に散布できる土壌処理剤のマーシェット乳剤を使用した除草方法を開発しました。

2. 内容

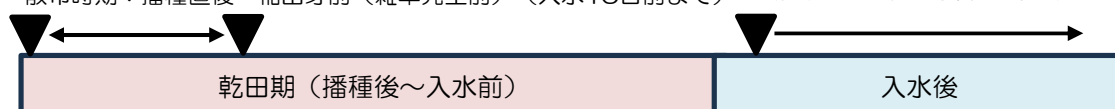
- ・マーシェット乳剤は雑草の発生を抑える除草剤のため、すでに発生している雑草への効果は低いです。そのため、散布時に雑草が発生している場合は②の使い方を参考としてください。

① マーシェット乳剤の散布時に雑草が発生していない場合

マーシェット乳剤のみ

散布量 : 1,000mL/100L/10a (原液/希釈水量)
散布時期: 播種直後～稲出芽前 (雑草発生前) (入水15日前まで)

直播水稻に登録のある一発処理除草剤
散布量と時期は農薬登録に従う



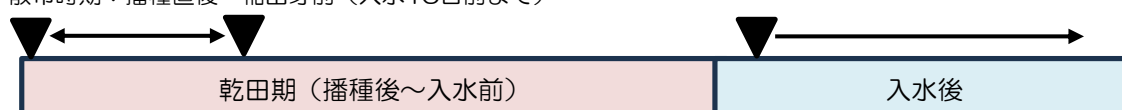
② (乾田不耕起栽培※のみ) マーシェット乳剤の散布時に雑草が発生している場合

※乾田不耕起栽培: 播種直前の作業が耕起ではなく(代かき、鎮圧など)、播種時に耕起を行わない栽培方法

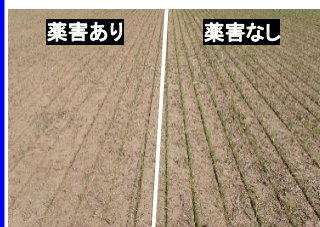
マーシェット乳剤+ラウンドアップマックスロードの組み合わせ

散布量 : 1,000+500mL/100L/10a
(マーシェット原液+ラウンドアップ原液/希釈水量)
散布時期: 播種直後～稲出芽前 (入水15日前まで)

直播水稻に登録のある一発処理除草剤
散布量と時期は農薬登録に従う



- ・除草効果はこれまでの選択性茎葉処理除草剤と同等です。鎮圧よりも代かきを行った水田で高い効果が得られます。散布後に発生した雑草も抑えられます。



3. 活用等

散布時もしくは散布から3日以内に雨などで土が湿潤になったり、滞水すると水稻への薬害(苗立ち抑制など)のリスクがあります。そのため、土が乾燥していて、3日後までは降雨予報がない時に散布してください。



関連情報

マーシェット乳剤とラウンドアップマックスロードを組み合わせる場合は、マーシェット乳剤を水で希釈してからラウンドアップマックスロードを加えてください。